

平成26年度合格新技術士講習会議事録

1. 日時：平成27年4月17日（金）13：00～17：00
2. 場所：日本技術士会 葺手第二ビル5階会議室C・D会議室
3. 共催：
 - 公益社団法人 日本技術士会 原子力・放射線部会
 - 一般社団法人 日本原子力学会 教育委員会技術者教育小委員会
4. 出席者
 - 【来賓】日本技術士会 高木専務理事、九州大学 工藤教授、筑波大学 成合名誉教授、JAEA 柴田客員研究員
 - 【合格者】佐々木隆博（二次）、井上賢紀（一次）、大平智章（二次）、八幡秀胤（二次）、正岡秀章（二次）、天田佳孝（総監）
 - 【部会員】桑江、浜崎、佐々木、中野、雨谷、伊藤（元）、青木、和田、川辺、中田、亀山、井口、伊藤（晴）（記録）
5. 配布資料
 - ①技術士登録（CPD登録、APECおよびIPEAエンジニア登録含む）について
 - ②日本技術士会の活動
 - ③平成26年度技術士二次試験について（一次合格者向け）
 - ④原子力・放射線部会の活動
6. 議事内容
 - 1) 開会挨拶（桑江部会長）

部会発足後10年になるが、これまでの活動を総括し、今後の10年計画を進めている段階である。内外からも期待されているポテンシャルの高い会であるので、皆さんも先輩技術士とともに部会活動を通じてメリットを享受しながらより高みを目指して欲しい。
 - 2) 来賓からの合格者への祝辞
 - 【高木専務理事】

福島の実況はまだまだ厳しい状況であるが、人材育成面では地についた話し合いができるようになってきた感がある。3、4年前から技術士会と最高裁事務局との間で協議を行っていたが、昨年12月に終了し、民事局と行政局の統括官が連名で高裁、地裁の長官に対し、技術的な専門訴訟については技術士を活用せよと言う通達が出されたと聞いている。名称独占から業務独占の仕事ができるかも知れない。技術士会としても皆さんの能力が発揮できる場を作るために努力したい。皆さんも今日がスタートと考え頑張ってください。
 - 【工藤先生】

10年前にこの制度の発足に携わり、当時は10年後には1000人の資格者が

生まれることを期待していたが、現状はまだそこまで到達していない。3月の原子力学会春の年会では、まずは福島復興、そして再稼働及び国際的協力が重要で、これらを成し遂げるためには専門技術の裏付けのある専門技術者の養成、協力が必須である旨の話があった。また原産協会の人材育成ネットワークでも人的面を含めたロードマップ（10年）を策定し動き出しているし、昨年から原産セミナー参加者も増えてきた。今後技術士の重要性は高まると思うので皆さんの活躍を期待したい。

【成合先生】

原子力学会の副会長時代に、技術士制度の設立に関わってきた。80年代の大きな原子力事故で技術者倫理が問われるようになり、90年代に原子力技術士の必要性について原子力学会から要望書を出した。専門技術能力の資格を持った人が必要な世の中になってきているので、皆さんの責任も重くなるが、努力をお願いしたい。

【柴田先生】

先ほどの裁判の話では技術士の責任も重たくなるが、一般の人から信頼されるには、専門技術のみならず他の人以上の教養を求められるため、これを高める努力も必要である（教養を身につけるための先生のいくつかの経験談が披露された）。長く努力を続ければいつかそれが身につくので、色々な努力をして幅を広げ、一般の人から技術士はすごいと言われる存在になって欲しい。

3) 新技術士のための講習

①技術士登録（CPD登録、APECおよびIPEAエンジニア登録含むについて）（伊藤（元）幹事より説明）

技術士登録はほとんどの人が実施済みのため簡単に紹介。CPDは技術士の努力義務であり、APEC（政府間）、IPEA（民間）国際エンジニアの免許申請、更新時に必要。

②日本技術士会の活動（青木幹事より説明）

日本技術士会の特徴、仕組み、登録人数等について説明。

③平成26年度技術士二次試験について（中田幹事より説明）

平成26年度の試験問題の出題傾向、ポイントについて解説がなされた。

- ・福島第一原発事故、除染作業を背景とした設問が増えており、専門家に対してではなく一般の人に対してどのように答えるかを問うものが増えている。すなわちリスクコミュニケーション力や技術者倫理が求められているので日頃からこれを考えておく必要がある。
- ・過去問を解くだけでは回答できない。改正法令、指針の背景設定からの出題が増えていることに留意するとよい。

④原子力・放射線部会の活動（亀山幹事より説明）

部会の活動方針である安全文化醸成活動、技術士の数の拡大、部会員の技術士活動支援、広報活動等について具体的な活動状況の説明がなされた。

4) 技術士合格者の自己紹介

司会者の質問に答える形で、新技術士の方々の自己紹介がなされ、先輩技術士との活発な意見交換がなされたので、下記にその一部を抜粋する。()内は先輩技術士からの意見である。

①氏名、所属、出身地

省略

②技術士受験のきっかけは？

- ・上司からの命令もあり、原子力・放射線部門の一次試験合格率が他部門より比較的高いのでチャレンジした。一次は1回で合格したが、二次試験は5回目によく合格した。周りに技術士がいなくて受験対策に苦勞した。また、お客とのトラブル解決等の中で、技術士資格を持っていると信頼度や説得力が増すと考えたから受験した。
- ・7年前に一次試験を受験し今回二次試験に合格したが、技術士資格を取得することにより規制庁の中の専門家として認知してもらおう動機があった。
- ・50才で、人生の区切りとして奮起して一次試験に合格した。部長から、RIの次は技術士と言われていたこと、また、福島を除染プロジェクトに参加して、民間会社が技術士等の資格を武器にして除染活動に参入しているのを見たことが動機である。
- ・動機は自分から積極的にではなく、先輩から尻を叩かれたためであるが、入社後3年でRI取得、7年かけて技術士に合格した。合格するまでやり抜く意思を持ってやってきたのが良かった。また、自分のモチベーションを高める一つとして資格を取得するという動機もあった。
- ・会社の方針として新入社員は技術士受験することが推奨されており、5回目に合格した。最初の受験費用は会社持ちである。

③技術士として活動したいこと？

- ・苦勞して合格したばかりなので、これから考えたい。
(活動の良さはやってみて初めて分かり、モチベーションが上がることから、是非思い切って部会に参加してほしい)
- ・24時間保守に入っているので、参加する機会が取れないのが悩みである。
(部会に入会すると、活動内容をメールで確認でき、また議論できる仕組みを作っているので参加して活用してほしい)
- ・まだ若いので年会費が高いのは、生活上痛い。当面は技術士資格を持っていると言う自負を持って業務に臨みたい。
(費用もあるが、入会することにより他分野の人と交流でき、自分を高めることができるので相殺できる面もある。登録しているだけでなく仲間と交流することにより段々活動内容が見えてくると思われ、ペットを飼っているように費用も償却できるのではないか。一方、部会に入り仲間と交流する中で自分自身

の能力不足を知り向上心が生まれるので、会費が高くても価値はある。また、資格は取った瞬間から錆びつくので、これを防止するためにも部会に入って活動すること、技術士としての顔を作る意味でも有用であるとの意見が出された)

- ・合格したばかりでこれからだが、自分が翻訳した約700頁のシビアアクシデントに関する技術書があるので、技術士としてこれを有効活用できる道がないか考えている。いつか出版等ができればと考えている。

- ・7年間頑張ったので、名刺に称号を明記し、少し合格の余韻に浸りながら、まずは自分の業務に対して役立つところから考えて行きたい。

(自分も、合格後1年間は何もしないでいたが、上司から部会の手伝いをするように言われ、今は、技術士の自覚をもってすすめることができているので、是非部会活動への参加をお勧めする。)

④先輩にお願いしたいこと？

- ・二次試験で苦勞したことを考えると、模範解答は参考になるので今後とも是非作成を継続してほしい。

- ・二次試験受験に当たって、保守等の現場経験がない設問にどのように回答したら良いかアドバイスがほしい。

(筆記試験段階では、現場経験を問われる設問はほとんどない。現場経験があればよいものではなく、技術士としての視点をどう持つかが大切。まずは知識吸収のための勉強をしてほしい。業務経験は申請書作成時とそれに対する面接のときに留意すれば良い。)

- ・今後もこのような場で色々と指導してほしい。

⑤今日感じたこと？

- ・裁判に技術士が活用されるという話に興味を持った

- ・名刺交換をする中で、技術士の意義を感じた。

5) 写真撮影 (平成26年度合格新技術士講習会記念写真)



6) 閉会挨拶 (原子力学会 教育委員会 技術者教育小委員会委員長 浜崎氏)

技術士の活動を通じて幅が広がり、社内だけでなく現在は原子力学会教育委員長及び技術者教育小委員会委員長としても技術士を応援している。学会でも CPD を奨励しており技術士を目指すことは意味がある。また、その一環として技術士試験の模範解答作成や受験講習会を技術士に協力してもらいながら取り組んでいる。人材育成面においても安全を育む価値観を技術士資格取得によって身に付けることが重要と考えられており、今後も皆さんと共に頑張っていきたい。

以上